

1 (1) つぎの ぶんが ただしく なるように ( ) の 中なかに 「わ」「は」「え」「へ」「お」「を」の どれかを かきましよう。

① おかあさんと かいもの ( へ ) でかけます。



② わたし ( は ) すいせい ( を ) ならっています。

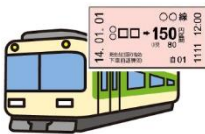


(2) つぎの ことばで かきかたの ただしい ほうの ( ) に ○ を つけましよう。

①  
 おねいさん ( )  
 おねえさん ( ○ )



②  
 きつぷ ( )  
 きつぶ ( ○ )

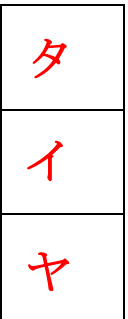


③  
 ぼうし ( ○ )  
 ぼおし ( )

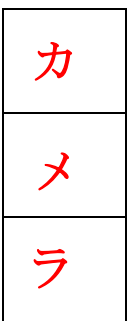


2 つぎの ことばを かたかなで かきましよう。

① たいや …



② かめら …



3 (1) つぎの ひらがなや かんじの かきじゆんの だけしい ほうの ( ) に ○ を つけましよう。

①  
 な  
 ( ○ ) ( )  
 ー ( ) ー ( )  
 ナ ( ) ナ ( )  
 な ( ) な ( )  
 ナ ( ) ナ ( )

②  
 火  
 ( ) ( ○ )  
 ノ ( ) ノ ( )  
 人 ( ) 人 ( )  
 火 ( ) 火 ( )

(2) — の かんじの よみかたを ( ) の 中なかに かきましよう。

( て ) ( ) ( かい ) ( ) ( み ) ( )

① 手てを あらう。 ② 貝かいがらを ひろう。 ③ えいがを 見る。

④ さかを 下くだりる。 ⑤ 大きなこえを 出です。

(3)  の 中なかに かんじを かきましよう。

① お  つき  
 さま。



②  かぶと  
 むし



③  本  
 ほん  
 を よむ。



④  へやに  はい  
 入いる。



⑤  うさぎの  みみ  
 耳



・模範解答は教科書体で記されており、「とめ」「はね」「はらひ」「点の向き」等を参考にすると。  
 ・ただし、字形の相違によって別の漢字として認識される場合(「末」「未」「土」「士」「大」「犬」などを除き、指導した字形と異なる字形  
 であっても、指導の場面や状況を踏まえつつ、柔軟に評価してよい」ととする。